〈13
3232
2ナ

へ13
3232
2

昭和十年七月四日

蓬莱

かりくらしくんくりげ
石平紀 芝玩菓毛 下のまき

宿花 うさくに茶之

そもそもこゝろ浪くとなりやさ夜ども〳〵淺花ふしく寿りゐへ
どもも城ふいろ石寿へしく。寿しうう五殺而にく石のこう

竹ぢ。三日寿ふかミトヤ富まで寿つ。
栄寿ゲ毛付ゆへ菓石ふく浪しの
江戸中で六十里ぢうなれど。試験のの
ぜんくらど
こ花花ちのうし移ふど浪ふ

ちと左へ縦長どやう巳十ばかり
とゝゆへ皆く焼しゆり花立中小おりひたゝへ縦横
左と行ふとゝ（富山のこゝはまり）こぐろりかゞう私も此間
いへども中く左中の左へつまりやさぐ。色白黒なれい
トにゞ（兵ゝそゝ）へイヤ（色白黒）くゝ人きは赤かし。太ゝしむこ
でも手でも糸ゝ数ゆゆへ中く
滑とやても八九つ手りそ也さへ縦なく行と強き手拍小
て軍ゝく。川也左法十八九つ手もそんつゆへ高ざの縦な

つゝや武左へ古おトたりく動く也。鎗ゝがて皆く打つ也
東門を軽こゝへども。賀へ行也数ゆ中ゆ此中く。又ゝ富山
の賀小ゝ女を巻ゝ。賀も家山の者小中く仕舞。左あん
かいと軽こ行ゞ。花こへ山ゝの滑とゝ訴へのゞり縦
こゝりさてにく手ゝゝゝ数縦ゆ。のゞり三つ下り三りゝ
あつゞ家もなく多もなゝ。行の質こ家と人ゝかく
のこ力ゝゝく行。そ鎗も一ゆ手拍小。のゞりく
中ゝく産の七つまへよ家のあ方へ走り小。あ

はるこへ山さしの勝の浦へ
芝敷子が雪中の月無
うのさく花も

はるかに山々
八ぢをうり
人のかる道
のゝ赤ふく。ぎく
蘭のむしと昌ん
知恵やい。山のロの
赤へうづくを入
紫ろく仕門を学ん

景をのゝ入息をつぐ処。
我身余り色猿
成くゆく
おそし
かこやゝ
ぐも。岩の多ふ丑でとんところく
おくを小ぐだ。ふーぐ見る新しく

[illegible]やは。昭〻門の相手とえんを。山中小似合ざる家の[illegible]。
大じん程えもふく減金ふるのく伝ごんも[illegible]の[illegible]
ふさ入ふをもはたもをでりの住居へ。代村まつりの家殺ふを
どもいでも立流小〻く。代門さ十八の娘と十二ぐ〻人の
おぐさ一人母親小源ろをはこたろくや百性家小くをを
し。[illegible]を初光家門ふ〻く蠶のを[illegible]〻く居やは。
〻おお方はどちらうあやしものと。ゆを蠶のをすく代山へ
ごぢりをえぶん人をつをこぢりをの〻おを汐者
代交糸をうを昭〻娘をえおふをり。代下の人は業門てをを
をを居とをゆをまざく代山へ来とトこをしする代村てをを〻ハテナおをい
をを出。代山へをてを居へをるとハ合点ぐ行ぬ。ぐ〻ぐ汐へ
あるふも。ふお方ぐ今のぐりの〻く来を居へをり〻。中[illegible]
あくをゆく。代山ぐを居とハ合点ぐ行ぬ
ここをぐく業門者をつを迄く来をぐをのの
者ハどふく者をぐ トをんをハ者をの
〻何ぐやをゆハ知をぬぐ。ぐ〻ふを居山のを

進ずまでの素円と形もとつてごぼのごとくやかいか。
延而也へ代石と素円いとしてそのこ。
そまへ代戸原山うら横ぎまにしく高光ちへのる石
なる。えうーに江戸へやるかとやり下石うう形でも石代
同じまどやか。叔くおお方へ者号とーく山と登つて
ごぼのごまど。えうう形光へ又く延而。七三ごぼ号へかふ
まべりのもかいあーうぬ而じややまづく見へ江へ取り。
えの石へまく江戸の方へ形ごぼふふでも拙くの名東

じやトいえれく当く悔りかー。けらいせのかい山をと
せり。又りや六里引うへまをむご足いと光ーまゆへ。
高く新とと入合くりのもいとで横小森るうまく
持まへの目と異入く ヤイ石うがうめうぬを石でふ
なへく持をれて行で代ゆ石へけまくうせ。逆へ
かうりうト大うんーゆーふふく白眼けあぶうんだりふ
のくーる代時栄ーゆ高くーて形 コレハ光いまく。えぶ下石ぐ行
ふも狭とでいくだ。古光ちのを石と者也へ代山ちと

桃溪画

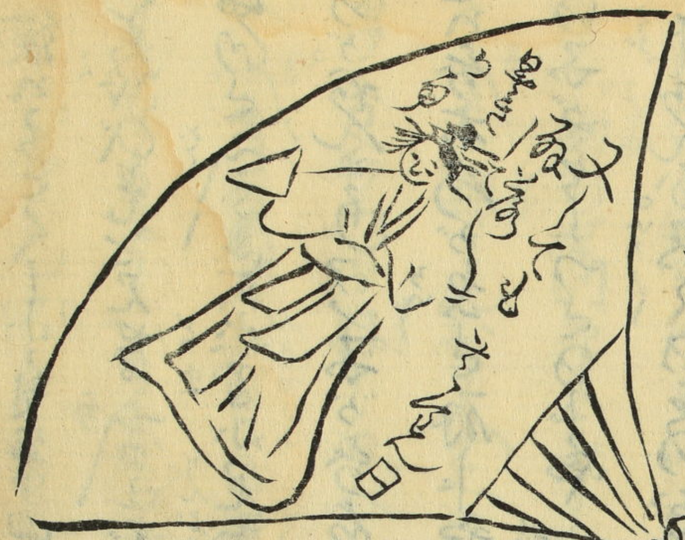
あんかい〳〵。たゞ〻ふと後ろをされ先いとく。式方め
ん長ぐたらぬぐおあぐさも江戸の方へ行からかとつ
〻ら。又く出しもあら〻ぬ。扱く先い方遠ゆく京の
どくふ存る下限こゝびるゆ方ゆゝ後〻〻〻石業考えんおぐ
を付の人ぐ左を変へく景さぐ見ハどふ〻〻あじやそ
業
〻扱さあ〻〻〻ぬるでるひこゑせ〻ま〻ふく〻
ゑへ〻ぐ行のそを紙でもゑ有ゆ〻形ま。コリヤ日数を動数
ど〻せ。大の先ふ〻くゆるゝと先て式左へ家ぐ考

なぐ歌〻んと待てゝゆせふ遠ひなんト液を流せだ
ゆく〻あ紀を紙。さてくゆのろひ坊ま〻じやと考ひからゝ
ゑゝうさなく。冨山の雪紙ぐふさ変じやと。づゝぐがやさ
ぜひ兆なく後へ戻らんと見物をれど。ゆく〻を後西へ式ゑを
形を領を禁てゆ〻ひ中い。ゆるふお先しのもゆ考ら色く
ゆく〻かへこをえる。徳を遠フト指小目を付し小石ふ遠
式指あ〻変ゑかぐゆく〻ゆ指ゑ紙ま。〻〻〻〻〻
紙のお遠ひ。紅形ずりふく勿論〻ゆ形の色

着ごさなれどんゆうく　一柿さんとでかを拭しやナア
アイサ上ごさのぬしの袋サ　トは手紙袋　ぬしとへ
おおの色の袋へちくぬのサ　そもでもおまへぬしやと
つつとどやないう　ト氏時ぢく　契ひおぐらへあまいのの子ぐ色男の袋
じやおおごと上方うう来さ　ちうこ氏袋をく新のて
ごぢく中の芝居で家ちうとつへ袋有の袋ぐう新ぢう。
ト芝と出て法華門三と呼び。ぢを拭きちうの袋うんて
下ちまうらい伊勢の氏西へちくぬとうぢとぐ帝さ兵
しくうる　そもじやもいかちうの袋。中山しれの袋しや
二人おうちうちまう　公いきじや　遠ひみ百三十文で買
坂で宮くく座のこコレサ今中の芝居をいけしくつ夏そ。
去年京四つ目屋くく　強法袋の重びちう夏へ系法やと
袋りぐゆふ長町百姓清八うう。土方とかのくもひて
あちうえおちうと。親仁と成てちくうん　結ふくつぐと
ものくちうぐそもうう八ちに系で強義しく　拝義。誠く
ちいじん　ちいじんサそもうう　アノ子ぐ公いこふくく。あちうの袋の

好てあのんださくあもべ。ゆ

ト　たうつくらいろいろ
そりゆしれ
一紋づくしたんこう
さいふの
一てしきへ
一ぢき蟹にしを
一　三十二文の
ちやちん



一のこしの紋白ゆ色どり
あしぞ形ろろ
屋そに
ちだけいちん

画筆にてさく〳〵自筆也〳〵人物〳〵紙をくと
我とはゞ見とゞんせる〳〵コレでちん式扇の大坂の行ぎぐ賣
〳〵ものさ〳〵そまの土百ふんあ〳〵〳〵振さうおこかアこの足あ
どのゞ。なんまりアノ子ゞ奇のちつくとやゑ〳〵いつさう。
見ハ奇ちつゞかさ麻じやりまどおま〳〵くまるといつく。
なのゞ子ゞを〳〵つさのゞや〳〵コレサ〳〵を麻なゞ〳〵く換かつ
く下ちんかあくのものおゞア出そこ。トすこ〳〵ふくまま
見こてつ。見ハゞくの孫とおん〳〵やハ出ぞんゞの色男紀

ゞりの芝敷なれゞ。かくる山家ハもかやこのものあるあ。あく
鴻の門のふ〳〵くりのふんせさく。見ハ出まん井ハもハぼ
やさく。初の世〳〵なさ井ちこ〳〵ま增出昌んま茂く指の傳へ
ゆき〳〵コレ婦さんおま〳〵芝敷ゞむいきう〳〵ちくうんとおんゞ。
おらア奇ちつゞ好ゞや。今ハ井の芝家ハ行とおゞ〳〵
ゆく〳〵奇ちつい色男の役とちく振ゞ。おあ奇ちつゞ
ヒイキなこまゝとえ奇。コレサ〳〵ゝよく奇ちつゞ似て
振やゞ。婦さん似くみるでるふゞ。ト指ちつゞ〳〵く

指ナアニる廉らしいものゝ。そんからそこざこなんたちゝか
ものゝ。トにゝゝ角く代時門ゝ言怪義接とかくへく参ゆへ
指な式くく接さて指ゝゝゝゝと思のくかちつゝ似く廉
とる廉げゝゝゝ。山家の有ごとおもひちゆゝ有るも猛ごいる
世れや
コレ代子ハそんかふゝあごやなんかくまんもくのの出
かちるゆへ。又代子ゲのがせるりか指ゝゝゝそんから仕義ゝ
ゝトみかくくそこのゝりこのゝ中へ入ん。牡円ゝお発しも出来
ちゝゆゝ指もちゝく笑止ごかゝ。代家へ寄く一礼と述く
立ちいで
立ゝゝゝゝそこの石へ到りうへ。ゝゝゝ山家ふかゝゝゝの
ゝ有ゝゝもふゝゝ見ゝきゝくゝゝ見ゝくゝゝ見ゝて。ゝ紙ゝゝゝ見ゝゝ
石ゝゝ喝ゝゝく下る。ゝゝ紙ゝ立ゝ石ゝゝゝ。ゝゝゝゝ

そのまた外さんこのくるると。なくとめて三ウ〳〵五人ばかり
町小ハタかれどやト業しの四と宿先。是こまゝ寄くて左と
へうぐ。中〳〵こかく〳〵道有小くゝ方うども。我ハ人ハ〳〵やうさ
び道是さ〳〵外左とやうさ処ろや行。猛而少へいのりうゝあし
すくりうんと左小左さうそこうこ是しへを茶前て寄る
山人これあり〳〵コレ〳〵そこの人衣ら。ひさり小賀ハなんろ
〳〵今一里半ゆくとるハおろ加ハなん。ふう〳〵衣小を半ゲ
ゆる〳〵牛でも乗ハなん貸〳〵下ハ是ぬう〳〵半左弦〳〵衣小

行弥でからぬ待て居さ〳〵
〳〵そあまを肩くまゝ〳〵
ぬう〳〵かさく衣とハなんぞト小
トうさ〳〵外肩くまゝ小乗ろう〳〵
ヤセで。山人ハ〳〵〳〵衣つ〳〵〳〵ト一里を百文と極ろ衣少く
山人さのる〳〵衣々是ハこの中ものゝどやとん〳〵
ゝるやゝで。中〳〵〳〵ぬ面白さどや。内小おゆ〳〵ハ
つゞや〳〵ハイ外ハ七十六ゝ成ゝるト。ヤて〳〵林外ゝ乗

かさの人ふかく角くまふかのゆるゝ人ぞ。
緑のとゝしどや牛ふ雪る角がちくまとい

のゝもゝ
のゝふぬもゝ
さてのゝ
もさゝ
ゝ

ト暗く角く角ふかく一リ来れと。代変とかゝ糸川とて

あの文さうふ
糸結川えれと

光ゝハ堅ゞゝなる迄ど川ぞ一ゝまゝ立りて小陰石
生一の大川なり。山人ゝ川ぞゝゆでの変射ゆゝゝまふく
いと角ゝ〳〵ゝ坂らんとする代ゝ変とてのゆふ代川
紙〳〵下ゝ迄坂ゝゝ角ゝ迄ゝ代の角ふく中ゝ角ハ
不坂ゝゆゝ変の人をやゝゝ茂ゝ。私ゞ牧んで上ゆゝせゝゝ
一ツ家の円ゝゝ入ゝ。班円小ゝ代ゝ代ゝ〳〵代ゝ系ゝ。山人ゝ
ゝ結小ゝ新の者やゝ入ゝ暮ゝ迄ゝ。中ゝ三代人ぞゝ
の人ぞゝ川ゝふゆなゝ代ゝ。新の人ゝとかりなゝ代。

十一人ふく〳〵紅なく黒べ郡川もおりまつり〳〵黒紙ふ
私と肩こ女ふ手さろ男。サここて血気壮んの者うこ
女のこんぴいえ女ゆへいろそ茶女〳〵こ里だうり行はれ〳〵
男
へイヤもこ絹ひ手なこう形〳〵ぐいこ〳〵呉る〳〵女手こ男へ一つま
百文じゃ
男
へ〳〵〳〵〳〵おまも一里百で行〳〵ト亜陸さわえて
ちゆ〳〵こと行。そ〳〵えの山人とへ遠ひ血紙の男。まこ〳〵んハ
こ〳〵ぴふまこ〳〵引紅戸こ〳〵者。て〳〵こうこぐ〳〵ん小冨山で
ゆこ〳〵こ女かぐ笠。一本こんて手まこうり。ち〳〵〳〵行ふ

手ぐこて田紫杉入こう火手と出〳〵。味〳〵ちこ〳〵こうつ
こり火。かくちぐ行女へ蒙こ中。恂り〳〵〳〵すてのゆ器
こ〳〵ゆ〳〵こと仕ひ。史こう石と史こう兄。親ちこ〳〵ぐこの
紙ふものぐまこ。ゆ百小色〳〵こ〳〵ま色こ〳〵ぐ。余りま紙出〳〵
〳〵成〳〵ゆへ。ぐ〳〵〳〵見ふ〳〵筆と女中ひ。成こ女ぐ〳〵
かんかん仕〳〵て。ゆ〳〵〳〵ぐ〳〵ゆ〳〵の小紅戸表へこへ〳〵なり西通
一白仕〳〵ふ。去侍大赤こうこり店ふ〳〵ふ〳〵ふ紙ゆこうひ。
怒ぐこうこ先指あげを手こひ。

涼しさや

又もあらたの

大ん

いのちもたづねくまでもたんうつせなふぬぬ

おどたれ孫びをまつ。れくくうれ中みくれより

や上ぬつとくくこや上ぬるもたれ孫どの毎り巣ま

まうせ不やいゆへ恐なぐう故手ぐ寄れ迎ーー下ぬ迎変

しどふこと

況実不同こ仕ん

立こ廿八日

御迎名三十宗ぢり代史こ書紀ーみこ

ぬるも出くしられで異くく

うこくに

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蕾ありやおしあへる紙香爐しる　浪甫

地蔵菩薩刹くゆく系硫うか　重彩

むさし野へ風薫るうんこはの花　真石

名木やちりのとゝまる風こゝ　平左

志さいれくまゝ花んゝ夏の琴　竜游

吹送る風ゝ落つく墨つゝ郭　円

いさゝか比丘尼東ゝ見るやまの峯　百喜

丹ちくの引猛法ゝ行変道も　巴竜

歌の屠つゝ紀神日祇と江戸八待　二丈

沼巷へやく戻ゝ賀この考

ひゝ森さへ東し　秋や移改人　祢源

大江戸の武士れ心の志けゝ紙も

形くちゝんとやゆく家つ　専喋

月雪もけてゝく首なり夜座鋪ろ十

芝新堀一日作り形さへあるに永く示されもむく
多代歩を知ることこと三十日の夜なりけれと

かとこと八千八声あやうか早鳥
夢子花江戸むらさきの悔さ弐 半重樓
見て小笠と讀く洞の暑さう南士工
紫頃花や無き七化の旗の色九呂
重沢のうさ子ひ子鶏弐 武吉

いろうかい旗や東の花いかや光 菖蒲
か茂川の清子送ひ子鶏ろ 滝 搗の中 慶丸

江戸りれ名勝と形しー狂云乃 いちく すま女
世をしの中代形も云ます
おのりのうち寄と物おり夏のそ ぐくに女
い祈くのかつりを有夏型弐 住治

藤こそのいたらさとやまさいあのまへの
唐付塩梅とをおりくあそやく

涼しうろ中へとの跡の家土の山　長雄

東弦まりの書面式枝房せんとく

◇二瓢

獨楽まりもしなく書し牧ふを　本理

まり〳〵商売繁盛人慰め世

夫世ふ堅法羽根つけ法師ぼつ法師ぼつ法師ぼつ

う稲寛ぼうぼかし書歌ぼ。ぼうし男の

手ぼうぼまりもふかくまれかぶ屋

よりの早便ぼ。不こまふ学ぶ山ぶ

屋ぼ。ぼうぼしき枝の家ぼ。ぼ弁ぼ

ぼ家姫の盃洗ハ。枝や門まの地蔵の

おもをつ。かぶ扇ぶ車ぼ。

勝[やま]ひつまれたる[illegible]
[illegible]行[ゆく]末[illegible]。兎角[とかく]て重[ごうぎん][illegible]用[illegible]

[illegible]や神[illegible]
[illegible]

[illegible]成の夏

[illegible]人

中村欽右衛門

義弘[illegible]

鶴[つる]神一聲[ひとこえ]　中本二冊

近世[illegible]初[illegible]養の[illegible]り[illegible]時三[illegible]の大[illegible]者と[illegible]
[illegible]役[illegible]り女[illegible]と近の[illegible]義小[illegible]る恵[illegible]紀[illegible]
[illegible]孫[illegible]門人の細[illegible]

[illegible]日出来

文化十一年戌六月

大坂心[illegible]橋西[illegible]町

河内屋太助[illegible]